

銅像空間の歴史地理学
—ホーチミン像を事例として—

The Historical Geography of Ho Chi Minh's Bronze Sculpture and its Space

大塚直樹*
OTSUKA, Naoki

Abstract: Aging becomes a serious issue in Japan now. Especially in the local area, the population is aging rapidly. Mimasaka City, Okayama Prefecture, which locates about 500 kilometers west of Tokyo, is one of such region. In the face of labor shortages, Mimasaka City is gradually dependent on foreign workforce, mainly Vietnamese people. Based on evaluation of routine interaction with Mimasaka City, including from labor export to cultural exchange, the Vietnamese Government donated a bronze sculpture of Ho Chi Minh to the City. The aim of this paper is to describe this event, namely donating bronze sculpture, in historical and geographical circumstance. In summary, it becomes clear that the meaning of display space is able to grasp being discovered through not only the root and/or originality of sculpture itself, but also the social and historical condition of its placeness. Because the evaluation of bronze statue and its space based on the memories and life stories of people involved, after that image of bronze sculpture created collective.

Key words: ホーチミン像 (Ho Chi Minh's bronze sculpture), 展示空間 (display space), ベトナム戦争 (Vietnam war), 歴史地理学 (historical geography), 外国人労働者の受け入れ (acceptance of foreign labor)

- I はじめに
- II 美作市の概要とベトナムとの交流
- III ベトナム戦争とその正義
- IV 銅像の展示空間と公共空間
- V むすびにかえて

I はじめに

日本政府観光局の統計によると、2018年5月に日本を訪れたベトナム人は、28,200人で前年同月比27.5%増、同年1月からの累計では135,261人(同21.8%増)となっている¹⁾。また、同局のホー

ムページには、ビジットジャパンキャンペーン実施本部が設置された2003年以降の訪日外客数が掲載されている。これをみると、2003年に日本を訪れたベトナム人は年間で17,094人であった²⁾。2017年にはベトナムから308,898人が日本を訪問している。したがって、ここ十数年の間にベトナムから来訪者は約18倍に増加している。

さらに2003年から2017年までの訪日者数の推移をみると(表1参照)、2013年および2014年に急速に増加していることがわかる。2013年には8.4万人(前年比53%増)、2014年には12.4万人(同47%)になっている。その後も訪日ベトナム

* 立教大学観光学部・兼任講師(亜細亜大学国際関係学部・准教授)

表1 訪日ベトナム人数の推移と増加率

	総 数	増加率
2003年	17,094	—
2004年	19,056	11.5%
2005年	22,138	16.2%
2006年	25,637	15.8%
2007年	31,909	24.5%
2008年	34,794	9.0%
2009年	34,221	-1.6%
2010年	41,862	22.3%
2011年	41,048	-1.9%
2012年	55,156	34.4%
2013年	84,469	53.1%
2014年	124,266	47.1%
2015年	185,395	49.2%
2016年	233,763	26.1%
2017年	308,898	32.1%

出典：日本政府観光局，国籍／月別訪日外客数（2003年～2018年）<https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/since2003_tourists.pdf>.

人数は増加し続け、2015年には18.5万人、2016年には23.4万人、2017年には30.9万人となった。つまり実数ならびに増加率で見ると近年（ここ5-6年間）、ベトナムからの訪日者が急増している。

こうした背景には、先にあげたビジットジャパンキャンペーンとの関連で「ベトナム国民に対するビザの大幅緩和」があげられよう。一例として、2014年6月17日の観光立国推進閣僚会議において「訪日客増加に大きな効果の見込まれるインドネシア、フィリピン及びベトナムに対して…（中略）…当面の措置として、以下の戦略的ビザ要件の緩和を行う」³⁾ことが発表された点を指摘できる。

加えて、日本における労働力不足を補うために、積極的に外国人を外国人技能実習制度や研修生などさまざまな形で受け入れ始めたことも看過できない。とくに過疎化が進展する地方においては、こうした傾向が顕著である。岡山県美作市も積極的に外国人労働者を受け入れている地域の一つである。美作市は、労働力確保を含めベトナムと文化・教育・経済などの分野で積極的に交流を進めている。文化交流の一環として、2017年10月に

ベトナム政府から故ホーチミンの銅像が寄贈された。寄贈されたこの銅像の展示をめぐり、展示主体である美作市を含め賛否両論がみられた。

本稿では、銅像空間の構築プロセスを分析することで、文化交流をめぐる相互作用の諸相を考察する。ここでいう銅像空間とは、後述するように当該展示が“Vietnam Ho Chi Minh Space”と謳われていることに由来するだけでなく、銅像の設置だけでなくその布置構成を把握し、展示空間の創られ方と政治化の可能性を詳らかにすることを含意している。あわせて今後の研究に向けた着眼点を提示する。

II 美作市の概要とベトナムとの交流

美作市は岡山県の北東部に位置する。同市の公式ホームページによれば、面積約430平方キロメートル、2018年9月30日現在、人口27,894人、12,365世帯になっている⁴⁾。また、2015年の国勢調査の結果における、65歳以上の人口が総人口に占める割合を示す高齢化率をみると、美作市のそれは38.9パーセントになっている。1990年の国勢調査では23.4パーセントであったことから、美作市では、ここ25年間に約15パーセント増加していることになる。また、2015年9月の全国の高齢化率をみると約27パーセントであり、美作市の高齢化率は全国平均を10パーセント上回っていることがわかる⁵⁾。

こうした社会状況のなかで、美作市では労働力確保を目的としてベトナム人を受け入れてきた。同市のホームページでは「美作市では、少子高齢化等の影響により人口の減少が著しい中、外国人の人口は年々増加傾向にあり、その中でもベトナム人の人口が増加している状況です。この状況に鑑み、美作市では、在米ベトナム人が安心して暮らせるまちづくりの構築や文化・教育・観光等において交流を図ることにより、更なるベトナム人の定住化や観光客の増加を目的に、ベトナム交流事業を推進しています。」と掲載されている⁶⁾。

表2に美作市とベトナムとの交流事業の概要をまとめた。まず注目されるのは、2015年4月の国立ダナン大学と協定であろう。協定では、相互の

表2 美作市とベトナムの交流事業概要

年	月	出来事
2015	4	ダナン大学と協定「相互の協力に関する協定」を締結
	8	みまさか商工会が技能実習生派遣機関(TTLC社)と事業協定を締結
2016	4	美作日越友好協会を設立(官民一体)
	8	ブー・ビン大使を団長としたベトナム代表団が訪問, ホーチミンの写真と書籍を寄贈
2017	10	ホーチミン像寄贈, 美作市への寄贈が日本初, 世界で18カ国目
	11	ホーチミン像贈呈式を開催
2018	5	ホーチミン生誕128周年記念式典の開催

出典：現地調査ならびに「ベトナムとの交流」美作市ホームページ<<http://www.city.mimasaka.lg.jp/soshiki/kikaku/eigyoo/1479781338101.html>>.

人材交流や講演会をおこなうことを定めている。協定締結後、美作市役所にダナン大学卒業生を嘱託職員として採用し、ダナン大学へ嘱託職員日本語教師を派遣している。また、同年8月には、みまさか商工会が技能実習生派遣機関と事業協定を締結した。ホームページには「更なるベトナム技能実習生の受け入れ体制の強化を」とあることから、以前から同市へベトナム人が流入しつつあった状況を、2015年になって地方行政側が積極的にバックアップしていったことがうかがえる。このような相互交流の実績がベトナム政府に評価され、2017年10月に美作市にホーチミン像が寄贈され、翌11月には贈呈式典が開催された。

一連の動向のなかで、地元美作市だけでなく、一部の在日ベトナム人からもホーチミン像設置に対する異論がみられた。『産経新聞』によれば、一部の美作市議らが「外国の政治家の像を公的な場所に設置することは、他国との交流事業に支障をきたすのではないか」として、設置に反対する申し入れ書を市民ら約2,000人の署名を添えて市長に提出した。2018年4月には元難民を含む在日ベトナム人らでつくる「日本在住ベトナム人協会」(東京)が「公共の文化空間は、一般市民らに認められる普遍的価値を有する芸術作品のみの設置がふさわしい」として、市長に像の撤去を求

める請願書を提出した。これに対して、市側は「(ホー・チ・ミン<ママ>が同国で芸術家としても評価されていることを踏まえ)作詞など文学的にも秀でた芸術家の像として受け取る」「観光客増加やベトナムからの視察などが見込まれ、(像の設置で)国内外へ向けPRを強化する」とコメントしたという⁷⁾。

ここには故ホーチミンの歴史的な評価をめぐる認識の位相のズレがみてとれる。すなわちホーチミンが指導したといわれるベトナム戦争をどのように捉え、後年のホーチミンをどのように評価するのかにより、文化交流事業の政治化という状況が発生したとも言い換えられる。

Ⅲ ベトナム戦争とその正義

前述のように、地方行政が文化交流の一環と考えた銅像展示が政治化した背景には、ベトナム戦争の存在が大きな位置を占める。以下では、ベトナム戦争を正義というキーワードから整理し、本稿の考察に対する補助線を引く⁸⁾。

周知のように、ベトナム戦争は旧宗主国であるフランスのベトナムへの再侵略を前史とする。その後、フランスによるベトナムの再植民地化政策は、冷戦構造下の世界秩序のなかで共産主義・資本主義の両陣営を巻き込んだ戦争に展開してゆく。ここでは、ベトナム戦争を三つの正義の視点から整理する⁹⁾。

正義1：南北に分断されたベトナム社会を統一しようと望む人びとを指す。この勢力は、フランスと日本の侵略に対抗して1941年に組織されたベトミン(ベトナム独立同盟)を主体とする。1945年9月に独立宣言をしたベトナム民主共和国は、フランスの再植民地化に対して、第一次インドシナ戦争を戦うことになった。1954年のディエンビエンフーの戦いにおけるベトミン側の勝利を経て、ジュネーブ協定が締結された。この協定は、北緯17度線ベンハイ河を暫定軍事境界線として、30日以内にベトミン側が以北に、フランス(・バオダイ)軍側が以南に集結することを定めた。さらに2年後の1956年に全土統一選挙が実施されることが謳われた。

これに対して、ベトナム南部では、1955年にアメリカの支援を受けたゴディンジェム（Ngo Dinh Diem）を大統領とするベトナム共和国がつくられ、北緯17度線の国境化を画策した。17度線の国境化の動きに対して、北部に終結したベトナムを中心とする勢力は南北を統一することを目的としたキャンペーンを展開してゆく。加えて、1960年には南ベトナム解放民族戦線が結成され、南部における正義1の主体となった。

ここでは詳述しないが、ベトナム民主共和国（北の正義1）と解放戦線（南の正義1）は必ずしも一枚岩であったわけではない。同時に解放戦線は、戦争当時に第三者から指摘されたような南部の人びとが自主的に組織した独自勢力であったわけでもない。

正義2：アジア地域の共産主義化を阻止することを目的としたアメリカが主体となった。1949年の中華人民共和国の成立、朝鮮戦争、中国における国民党と共産党の争いなど、アジア諸国にみられた共産主義化の動きに対して、アメリカは、資本主義国のリーダーとしてドミノ理論のもと、アジア諸国の戦争・紛争に介入していた。

ベトナムでは、南ベトナム解放民族戦線が結成されたことを契機として、ケネディ大統領がベトナムへ軍事顧問団を派遣した。ここからアメリカの軍事介入が始まった。以後、アメリカは、先に述べたようにベトナム共和国を支援し、D・ハルバスタムの著作のこぼを借りれば「ベトナムの泥沼」に引き込まれていった¹⁰⁾。1965年には、ジョンソン大統領によって、いわゆる北爆が開始され、さらにアメリカ海兵隊の派遣が決定され、本格的に参戦した。1973年1月にパリ和平協定が締結され、同年3月にアメリカ軍はベトナムから撤退した。

正義1にとっては、アメリカ主体の正義2が主たる敵であった。実際、正義1のベトナムではベトナム戦争を「救国抗米戦争 *chien tranh quoc chong My*」と呼ぶ。この名付けに正義1の政治的思想が現れている。

正義3：前述のベトナム共和国建国を端緒として、ベトナム南部の独立を望むベトナムの人びとを指す。正義3には、ジュネーブ協定の後に共産

主義側からの弾圧を恐れて、北部から南部へと移住した人びとも含まれる。アメリカの支援を受けた正義3は、ベトナム南・北の正義1との戦争を展開した。その後、ジュネーブ協定が締結されアメリカ軍が撤退し、「ベトナム戦争のベトナム化」によって全面的に正義1と対峙した。アメリカの後ろ盾が間接的となり弱体化した正義3は、1975年のベトナム人民軍の春季攻勢（ホーチミン作戦）によって、次つぎと拠点を失った。1975年4月30日に当時のベトナム共和国の首都サイゴンを明け渡すことになった。

正義3は、特権的な立場にあった人びとを中心に1975年4月30日前後からアメリカへ亡命し始め、その後もいわゆるポートピープルと呼ばれる難民としてベトナムを去り、アメリカ、オーストラリア、フランスなど各地へ亡命した。すべての人びとがベトナムを後にしたわけではないものの、すくなくとも正義3は、1976年に成立したベトナム社会主義共和国のなかで正義ではなくなった。

以上のように、正義1と正義3では、現行のベトナムの政治体制に対する立場が大きく異なる。この認識のズレがホーチミン像展示をめぐる議論を誘引した。すなわち、ホーチミンの存在は、正義1にとって現在のベトナムの政治体制に正統性を付与するとともに「建国の父」として当該社会のルーツをなすのに対して、正義3にとって対極に位置する。

Ⅳ 銅像の展示空間と公共空間

美作市に寄贈されたホーチミン像（座像）は、作東文化芸術センターに設置されている。同館の1階には作東図書館と学習センターがあり、2階には作東美術館が入っている。ホーチミン像は、建物を入れて左側、案内図にラウンジと記された空間に位置する（写真1）。像に向かって右手（入り口側）には、Vietnam Ho Chi Minh Spaceと書かれた看板が立てられている。さらに隣接して、「ホーチミン主席生誕100周年に関するユネスコ総会決議」なる文章（第24C/18 65 1987年）が日本語と英語で掲載されている。この決議でユネスコは、加盟国に対して、ホーチミンのベトナム



写真1 正面からみたホーチミン像。左右にベトナム・日本の旗。右手にはユネスコ総会決議のパネルがある(2018年6月撮影)。



写真2 側面からみたホーチミン像。竹製の椅子に腰かけている(2018年6月撮影)。



写真3 ホーチミン像の表情。
写真6 (ホーチミン博物館の像)と比較して若い時代と考えられる(2018年6月撮影)。



写真4 右手にメガネ、左手に新聞をもっている。紙面からはNhan Dan (人民の意)の文字が読み取れる(2018年6月撮影)。



写真5 ホーチミン市人民委員会前のホーチミン像。直立し、右手をあげている(2016年1月撮影)。



写真6 ホーチミン博物館分館(ホーチミン市)のホーチミン像。同博物館の像は美作市寄贈のそれに類似する。写真右は合掌する参観者(2017年5月撮影)。

ム民族解放への貢献、文化・教育・芸術への貢献に鑑み、生誕100周年記念事業に参加するように勧告した。ここから、前者（ベトナム民族の解放）の側面からみると政治家、後者（文化・教育・芸術分野での貢献）からみると文化人と捉えうる。

『産経新聞』によれば、台座を含めた高さ約190センチメートル、幅約90センチメートル、奥行き約120センチメートルとされる¹¹⁾。この像は、タケのイスに座った状態で、右手にめがねをもち、左手に新聞（Nhan Dan）をもっている。足下はサンダル履きで、初老期の、表情がやや硬めの像である（写真2・3・4）。また2018年6月の調査時点では、銅像の右（入り口側）に日本の旗、左にベトナムの旗が掲揚されていた。その他、像の左右にはホーチミン関連の書籍・肖像画などが置かれている。

近現代の歴史上の人物のなかで、教育者や学者、芸術家の像は、物憂げな表情で座っていることが多く、直立して右手をあげた像は、運動家や政治家の場合に多くみられるという¹²⁾。先にみたように、ホーチミンは、民族解放、文化・教育・芸術の側面から評価を受けている。したがって、直立パターンと座したその二つの銅像が存在する可能性をもつ。

実際、ホーチミン市第1区のグエンフエ通りには、かつて座して子どもを抱えるホーチミン像（Tuong dai Bac Ho voi thieu nhi／子どもと一緒にのホーおじさん像）が設置されていた。2014年～2015年にかけておこなわれたグエンフエ通りの改修工事にあわせて、この銅像が直立して右手をあげるホーチミン像に据え換えられた（写真5）。したがってグエンフエ通りのホーチミン像の建て替えは、「子どもが好きなホーおじさん（Bac Ho）」から「革命指導家であり建国の父であるホーチミン主席」への表象の変化とも捉えうる¹³⁾。

再び美作市のホーチミン像に目を転ずると、座像であることから、どちらかといえば文化人としての側面が強調されていると推察しうる。したがって、美作市に展示された座して新聞を読むホーチミン像は、「文化人」の表象に近く、政治性を色濃く反映しているとは必ずしも言い難い。

しかし、この像がもっている新聞がベトナム共産党機関誌『人民』であることには留意する必要があるかもしれない。また、表2に示した2018年5月のホーチミン生誕128周年記念式典の際に、同市市長が「代表者らとともに〔ホーチミン〕像に香を手向け、合掌するなどしていた」（〔 〕は引用者）¹⁴⁾との報道をみると、文化人の枠組みを超えた対象になっているようにも捉えうる。

ホーチミン像に対して合掌する行為は、ホーチミン博物館（ホーチミン市分館）のコメモリアル・ルームに置かれた像にもみられる。同像は、祭壇を模したような台座の上に設置され、金色でイスに腰掛けている。ホーチミン像の左右には、ろうそく・生け花・果物が供えられ、香炉が置かれている（写真6）。言い換えれば「祀られている」とも捉えうる¹⁵⁾。なお、ホーチミン博物館に設置された銅像は、美作市に寄贈されたホーチミン像と相似している。

V むすびにかえて

この小稿では、地方自治体に寄贈されたホーチミン像の展示をめぐり、銅像空間がつくられる過程における文化交渉およびその政治化の諸相を明らかにしようと試みた。

少子高齢化社会にあって労働力不足が深刻になるなかで、美作市はベトナム人の受け入れを進め、同時に文化交流もおこなってきた。とくにダナン大学との協定締結後、美作市役所にダナン大学の卒業生を嘱託職員として受け入れ、ダナン大学へは日本語嘱託講師を派遣するなど、積極的な交流がみられた。こうした活動がベトナム政府から評価され、ホーチミン像が寄贈された。新聞記事の発言に鑑みて、同市の市長は、ホーチミン自身を「文化人」と定義し、文化交流の証としてホーチミン像を受け入れ、同市作東文化芸術センター1階のラウンジに展示した。これに対して、一部の人びとは、ホーチミンを「一国の政治家」と捉え、公共空間に必ずしもふさわしい銅像とはいえないと懸念を示した¹⁶⁾。

また日本国内に存在するベトナム人コミュニティからは、同市に公共空間の展示では一般市民

らに認められる普遍的価値を有する芸術作品がふさわしい、との声明が寄せられた。このようなベトナム人コミュニティの発言と一部の市議が表明した懸念とは文脈がやや異なる。ベトナム人コミュニティの発言には、ベトナム戦争、ひいては指導者としてのホーチミンをどのように評価し、捉えるかの歴史的記憶が接続している。すなわち、「建国の父」と称される国民国家としてのベトナムとは評価の位相が反転する。事実、ホーチミン博物館の事例に示されるように、同国では銅像空間が志向する場所性が全く異なっている。

以上のように、同じ銅像であっても展示・設置プロセスや当該社会の政治経済的な条件によって多様な現象が現前化し、社会空間が複層化すると捉えることができよう。言い換えれば、模写されたモノは、その模型が展示される社会空間が異なれば、別個の価値が付与される可能性も持っている。したがって、模型展示、ここでは銅像空間の考察には、対象となるコト／モノがもつオリジナリティだけでなく、当該社会の文脈における創造性やその変化を把握することが肝要であろう。

付 記

本稿に関連する現地調査は2018年6月22日～24日に実施した。調査にあたっては、研究分担者として、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B)「東アジアにおける戦争観光とナショナリズム」課題番号15H03140、研究代表者：高山陽子(亜細亜大学国際関係学部教授)の助成を受けた。また、2018年7月31日に開催された模型研究会(於：亜細亜大学)での議論が本稿の考察の一助となっている。当日の参加者に対してこの場を借りて謝意を表したい。

注

- 1) 日本政府観光局プレスリリース、訪日外客数2018年5月推計値を発表 前年同月比16.6%増267万5千人、<https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/pdf/180620_monthly.pdf> (2018年6月23日閲覧)。
- 2) 日本政府観光局、国籍/月別 訪日外客数 (2003年～2018年) <https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/since2003_tourists.pdf> (2018年6月23日閲覧)。
- 3) 観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014—「訪日外国人2000万人時代」に向けて—(平成26年6月17日観光立国推進閣僚会議決定) <<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kankorikkoku/kettei/siryou2.pdf>> (2018

年6月23日閲覧)。

- 4) 美作市の人口・世帯数【平成30年度】／美作市ホームページ <<http://www.city.mimasaka.lg.jp/soshiki/shimin/shimin/jinkodotai/1522322591443.html>> (2018年10月7日閲覧) および美作市の概要／美作市ホームページ <<http://www.city.mimasaka.lg.jp/shisei/gaiyo/shokai/1446772165257.html>> (2018年10月7日閲覧)。なお美作市は、2005年3月31日に勝田町・大原町・東粟倉村・美作町・作東町・英田町が合併して新設された。
- 5) 平成27年国勢調査「年齢(5歳階級)、男女別人口、年齢別割合、平均年齢及び年齢中位数一全国、全国市部・郡部、都道府県」 <<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kekka/kihon1/pdf/gaiyou2.pdf>> : 50ページ、および平成27年国勢調査「都道府県・市区町村別統計表」 <<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031594311&fileKind=0>> (2018年10月7日閲覧)。1990年における美作市の高齢化率は、総務庁統計局 1991. 平成2年国勢調査報告. 都道府県・市町村編33岡山県. 62-63, 66-69ページより算出。
- 6) ベトナムとの交流／美作市ホームページ <<http://www.city.mimasaka.lg.jp/soshiki/kikaku/eigyo/1479781338101.html>> (2018年10月7日閲覧)。以下の美作市とベトナムとの交流については、とくに言及しない限り、当該ホームページならびに現地調査で得られた資料に基づいている。なお、『産経新聞』によれば同市にはベトナム人90人以上が在住しているという(岡山・美作市が公共施設にホー・チ・ミン像 在日ベトナム人ら反発、撤去求める -産経WEST <<https://www.sankei.com/west/news/180607/wst1806070003-n1.html>> (2018年6月7日閲覧)。
- 7) 岡山・美作市が公共施設にホー・チ・ミン像 在日ベトナム人ら反発、撤去求める -産経WEST <<https://www.sankei.com/west/news/180607/wst1806070003-n1.html>> (2018年6月7日閲覧)。
- 8) 当然のことであるが、冷戦構造下で全世界を巻き込んで展開したベトナム戦争の歴史を簡単に述べることはできない。ここでは、あくまで本稿の整理に必要な点のみを概観する。ベトナム戦争に関する研究は、枚挙にいとまないが、さしあたり、古田元夫(1991)を参照のこと。
- 9) 正義の考察については、アーレント(1994)およびこの報告をめぐる一連の論争が参考になる。
- 10) 詳細はハルバスタム(1987)を参照のこと。
- 11) 岡山・美作市が公共施設にホー・チ・ミン像 在日ベトナム人ら反発、撤去求める -産経WEST <<https://www.sankei.com/west/news/180607/wst1806070003-n1.html>> (2018年6月7日閲覧)。
- 12) 詳しくは、高山(2018: 23-27)を参照のこと。
- 13) 「ホーチミン」ならびに「ホーおじさん」という二つの表象については、大塚(2015)を参照のこと。なお、子どもと一緒にのホーおじさん像は、同市3区の施設「子

どもの家」前に移設された (TP HCM cung thnh tuong Bac Ho ve Nha thieu nhi thanh pho - VnExpress <<https://vnexpress.net/tin-tuc/thoi-su/tp-hcm-cung-thinh-tuong-bac-ho-ve-nha-thieu-nhi-thanh-pho-3226655.html>> (2016年8月16日閲覧)). また人民委員会前広場のホーチミン像設置にあたり、複数のデザインが市民に公開され、意見が集約された結果、最終的にラムクアンノイ (Lam Quang Noi) 氏の案が採択されたという (TP HCM khanh thanh tuong dai Chu tich Ho Chi Minh - VnExpress <<https://vnexpress.net/tin-tuc/thoi-su/tp-hcm-khanh-thanh-tuong-dai-chu-tich-ho-chi-minh-3219468.html>> (2016年8月16日閲覧)).

- 14) 岡山・美作で「ベトナム建国の父」ホー・チ・ミン生誕記念式典 一部に疑問の声、在住ベトナム人も「独裁者」と反発一産経WEST <<https://www.sankei.com/west/news/180522/wst1805220012-n1.html>> (2018年6月7日閲覧).
- 15) 同博物館で観察していると、写真6のように、合掌し、参拝する参観者が多く見受けられた。ホーチミン博物館にみる展示実践について詳しくは、大塚 (2015: 134-135) を参照のこと.
- 16) 公共空間における銅像の展示をめぐることは、その歴史的展開や社会的状況の変化を把握した上で議論を進める必要がある。この点は今後の課題としたい。さしあたり、高山 (2014: 21-52) を参照のこと。また、銅像空間が政治化した可能性を孕む事例として、台湾における蒋介石や八田與一の像破損があげられる。たとえば、相次ぐ銅像破壊「歴史の保存こそが我々の責任」中央社フォーカス台湾 <<http://japan.cna.com.tw/news/asoc/201704250001.aspx>> (2017年4月30日閲覧)、台湾で蒋介石像の頭部切断 日本人技師・八田與一像損壊の報復か一産経ニュース <<https://www.sankei.com/world/news/170423/wor1704230004-n1.html>> (2017年4月30日閲覧) などを参照のこと。この事例でも台湾における歴史的・社会的背景の諸相を読み解く必要性があらう。

文 献

- アーレント, H. 1994 [1969]. イェルサレムのアイヒマン——悪の陳腐さについての報告. みすず書房 [新装版].
- 大塚直樹 2015. ベトナム社会主義のなかのホーチミンと観光実践. 国際関係紀要 24 (1・2): 131-142.
- 高山陽子 2014. パブリック・アートとしての銅像. 国際関係紀要 23 (1・2): 21-52.
- 高山陽子 2018. 右手を挙げる人 (銅像よもやま話5). 楳——国際関係・多文化フォトジャーナル 5: 22-27.
- 多木浩二 1988. 天皇の肖像. 岩波書店 (岩波新書).
- ハルバスタム, D. 1987[1968]. ベトナムの泥沼から. 泉湧之・林雄一郎共訳. みすず書房 [新装版].
- 古田元夫 1991. 歴史としてのベトナム戦争. 大月書店.
- レルフ, E. 1999. 場所の現象学——没場所性を越えて.

高野岳彦・石山美也子・阿部隆訳. 筑摩書房 (ちくま学芸文庫).

インターネット資料

- 相次ぐ銅像破壊「歴史の保存こそが我々の責任」中央社フォーカス台湾 <<http://japan.cna.com.tw/news/asoc/201704250001.aspx>> (2017年4月30日閲覧).
- 岡山・美作市が公共施設にホー・チ・ミン像 在日ベトナム人ら反発、撤去求める一産経WEST <<https://www.sankei.com/west/news/180607/wst1806070003-n1.html>> (2018年6月7日閲覧).
- 岡山・美作で「ベトナム建国の父」ホー・チ・ミン生誕記念式典 一部に疑問の声、在住ベトナム人も「独裁者」と反発一産経WEST <<https://www.sankei.com/west/news/180522/wst1805220012-n1.html>> (2018年6月7日閲覧).
- 観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014—「訪日外国人2000万人時代」に向けて— (平成26年6月17日観光立国推進閣僚会議決定) <<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kankorikkoku/kettei/siryou2.pdf>> (2018年6月23日閲覧).
- 台湾で蒋介石像の頭部切断 日本人技師・八田與一像損壊の報復か一産経ニュース <<https://www.sankei.com/world/news/170423/wor1704230004-n1.html>> (2017年4月30日閲覧).
- TP HCM khanh thanh tuong dai Chu tich Ho Chi Minh - VnExpress <<https://vnexpress.net/tin-tuc/thoi-su/tp-hcm-khanh-thanh-tuong-dai-chu-tich-ho-chi-minh-3219468.html>> (2016年8月16日閲覧).
- TP HCM cung thnh tuong Bac Ho ve Nha thieu nhi thanh pho - VnExpress <<https://vnexpress.net/tin-tuc/thoi-su/tp-hcm-cung-thinh-tuong-bac-ho-ve-nha-thieu-nhi-thanh-pho-3226655.html>> (2016年8月16日閲覧).
- 日本政府観光局, 国籍/月別 訪日外客数 (2003年~2018年) <https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/since2003_tourists.pdf> (2018年6月23日閲覧).
- 日本政府観光局プレスリリース, 訪日外客数2018年5月推計値を発表 前年同月比16.6%増267万5千人 <https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/pdf/180620_monthly.pdf> (2018年6月23日閲覧).
- ベトナムとの交流/美作市ホームページ <<http://www.city.mimasaka.lg.jp/soshiki/kikaku/eigyo/1479781338101.html>> (2018年10月7日閲覧).
- 美作市の概要/美作市ホームページ <<http://www.city.mimasaka.lg.jp/shisei/gaiyo/shokai/1446772165257.html>> (2018年10月7日閲覧).
- 美作市の人口・世帯数【平成30年度】/美作市ホームページ <<http://www.city.mimasaka.lg.jp/soshiki/shimin/shimin/jinkodotai/1522322591443.html>> (2018年10月7日閲覧).